

中国野球の現状と発展に関する研究

スポーツビジネス研究領域

5018A051-1 CHEN BOWEI

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 序論

2008 年、中国のスポーツ歴史に刻んでいる北京五輪が世界中の注目を集めた。それをきっかけとし国民の健康意識が高まり、スポーツの参加率も増加した。2014 年、国務院が発表した「スポーツ産業の加速及びスポーツ消費の促進に関する意見（国务院关于加快发展体育产业促进体育消费的若干意见）」の刺激により、2017 年にスポーツ総生産は 2.1 兆元（約 33 兆円）に超え、増加率は 20%以上で、国民総生産の増加率を 2 倍以上上回った。この増加率が維持されるならば、スポーツ産業純生産は 2020 年に 1 兆元（約 17 兆円）を超えると予想される。

このように拡大している中国のスポーツ産業の中で、中国野球協会は 2016 年に「中国野球産業中長期計画」を発表した。2016 年の時点で、全国にはおよそ 50 球場が存在し、登録選手は 1000 人を超え、アマチュアでは 2000 チームがあると公表されている。さらに野球産業を発展するには、2025 年まで 200 以上の野球場の整備、プロ・アマチュアチームを 5000 以上に増加、野球と野球関連産業の市場規模を 500 億元（約 7827 億円）に拡大するという目標が掲げられた。それを実現するため、プロリーグ、学生リーグ、アマチュア、クラブ管理、専門人材育成、施設の建設、海峡兩岸交流、国際交流、関連ビジネス、掲示板の構築、標準設定・ビッグデータ、融資ベースの確保など 12 項目が重要視された。

一方、中国国内の野球活動は 1895 年、北京匯文書院と上海センジョンズ学院という 2 つの教会学校から始まった。そのあと清国の滅亡につれ、西洋との交流が増加し、近代スポーツが民間に広まった。野球も近代スポーツの先頭に立ち、普及していった。しかし、中国内部の混乱や外国資本主義の干渉により、国民がスポーツをする余裕はなかった。結果、文化大革命により、資本主義の娯楽を象徴する野球は落日を迎えた。

1970 年代後半、文化大革命の終わりにつれ、野球は再開を迎えた。清華大学をはじめ、多くの大学が野球活動を再スタートし、2019 年には 2100 万人の野球人口があり、そのうち、「消費者」は 1730 万人であり、野球試合をみる「観戦者」と実際に野球をする「参加者」はそれぞれ 970 万人、850 万人である。

2. 目的

本研究は近年、中国における野球の環境を明らかにし、中国野球界の取組状況や今後の発展に関する示唆を得ることを目的とする。

手法

文献調査を行い、中国野球リーグ、大学野球、ネット中継、MLB Development Centers の変遷と現状を図表で整理する。

3. 結果

1、2009 年と比べると、2020 年に開催予定のメイン野球イベントが倍増し、試合期間も 2 月から 12 月までの 11 月間に増加した。U9、U10、U12、U15、U18

など年齢別開催する大会や台湾など中国大陸以外の地域との交流も進んでいた。

2、中国野球リーグは2002年に発足し、スポンサーの撤退や代表選手の遠征により2回中止した。しかし、2019年にはプロ化改革を行われた

3、中国の大学野球の活動歴は長い、2004年には統括組織が結成し、大学野球リーグが発足した。更に、2019年の大学リーグの開催地が体育総局「スポーツエンターテインメントプロジェクト」により選ばれた中山市に移行した。また、2017年には中台学生野球交流戦が開催し始めた。

4、2016年から、楽視スポーツや Tencent Sports は MLB、NPB のネット中継を開始し、両方とも大量の視聴者を持っている。近年では視聴者数に増加につれ様々な野球イベントがネット中継を開始した。

5、MLB DC は2009年中国に設立したから、卒業生が69人に達し、7人の中国選手はアメリカマイナーリーグにプレー。そして2018年、中国代表がアメリカ独立リーグに挑戦することにより、チームの競技力は向上し、2019年のアジア選手権大会には2度と韓国チームを破り、2020年東京五輪の敗者復活戦の出場権を獲得した。

4. 考察

表-1 中国野球界の今後の発展に寄与すると考えられる主な取り組み

項目	主な内容
イベント	2009年と比べると、2020年に開催予定のメイン野球イベントが倍増
プロリーグ	2019年プロ化改革

大学野球	2017年、野球が体育総局の「スポーツエンターテインメントプロジェクト」の対象となる。
中継	2016年にMLB、NPBのネット配信開始
MLB DC	MLB DCが2009年中国に設立

中国の野球は近年、様々な野球イベント、プロリーグ、大学野球、ネット中継やMLB DCなどの展開につれ、着実に進んでいた。

そして歴史から見る中国野球は、政治に左右され1度消滅したが、現在の中国は平和的な発展を追求している。スポーツは言語や人種、性別の壁を越えて世界中の人を繋がる力を持っており、お互いに理解を深める効果があると見られている。特に、野球が盛んなアメリカ、日本、韓国に対しては、国事であれ、民間交流であれ、野球が相互の誤解を打ち破れると考えており、中国の魅力を世界中に発信することを期待する。

5. 結論

中国野球の歴史を回顧し、今日の中国野球を支えてきた野球イベント、野球リーグ、大学野球、ネット中継そしてMLB DCの現状を整理した。初期の中国野球リーグが競技人口不足とスポンサー招致困難のゆえ、2度も中止してしまった。しかし、近年では大学野球の進展とMLBの協力の下、中国の野球産業が拡大し、リーグもプロ化改革を迎えた。さらに、野球経験者が社会に出ていくにつれ、野球産業の好循環を促進すると見られた。これから、学校における野球の普及、プロリーグの商業化改革、MLBやNPBとの連携を進めると中国野球産業の拡大につながると結論づけた。